

G 研道徳研究室 研究主題 読み物資料の提示の仕方を工夫して思考力を育てる道徳授業の試み

第3学年 道徳学習指導案

1 主題名

価値の自覚（自分の考えをはっきりさせて、相手に上手に伝える方法）
小学校中学年1 - (1)

2 資料名

「バドミントンクラブ」 出典 文溪堂

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題においては、自分の考えをはっきりさせることができる子どもを育てるというものであり、それぞれの考えのよさを考えることの大切さについて考えていくことがねらいである。人は考えをもって発言したり、行動したりすることが大切である。しかし、ある一方的な考えしか考えず、もう一方の考えについて吟せず発言したり、行動したりしてしまう事が見られる。自分の考えが本当に大切だと感じさせるためには、自分の考えのよさと他の考えのよさを比べることによって、自分の考えについてより自信をもつことができると考える。自分の考えをはっきりさせることによって、調べ学習、グループ活動、係活動など自分の考えのよさを理解して取り組むことができると考える。また、相手の考えについても認めることができ、よりよい人間関係を築くきっかけになることも考えられる。そのように自分の考えをはっきりさせて、考えのよさを理解して取り組むことができれば、子どもたちの自立へとつながると考える。

(2) 児童の実態について

本学級の子どもたちは、事前のアンケートによると「わたしは、自信がないので人にあわせることが多いですか。」という質問に対して「はい」と答えた子が55%、「わたしは自分で決められないことがよくありますか。」という質問に対して「はい」と答えた子が67%見られた。つまり、本学級の子どもたちは、自分で決めなくても他人がきめてくれるという考えをもっている子が多い。また、自信をもってきめる経験が少なく、自分の考えのよさに気づいていないと考える。このような結果から、考えのよさを考えないまま行動していたため、係活動の場面でも安易に係をきめたり、意欲が継続しないことがよく見られた。また、失敗したりうまくいかなかったりすると、後悔したり、他人の責任にする姿がみられることもあった。

(3) 資料について

本資料、自分もっている考えのよさと友達から伝えられた違う考えのよさについて葛藤するという、子どもたちの生活場面でよく見られる場面設定で、子どもたち自身が共感できる資料だと考える。主人公のあき子さんは、4年生から始まるクラブ活動で絵画クラブに入りたいと考えていた。しかし、仲良しのみどりさんからバドミントンクラブと一緒に入ろうと誘われることで迷いが生じる。また、あき子さんはお父さんから「本当に何をやりたいか、よく考えてみるんだよ」とアドバイスを受け、次の日の朝、みどりさんに伝えるという資料である。みどりさんに返事を伝える場面を空白にし、理由も考えさせることによって、子どもたちの考えに価値づけることができると考える。

4 本時のねらい

自分の考えをはっきりさせることが大切であることを理解させ、自分の考えを自分できめることができる態度を育てる。

5 日時

平成18年10月18日(水) 5校時 3年教室において

6 準備

資料「バドミントンクラブ」、道徳ノート、色カード、紙芝居、写真(拡大)

7 学習展開

		学習問題	教師の支援
導 入	2 分	1 係ぎめをしたときに迷ったときのことについて話し合い、めあてについて確かめる。 めあて どれをえらぶかまよったときに、どのようにすればいいか考えよう。	○ 係ぎめをしたときのことを想起できるように、係活動のときの写真を提示する。
		2 資料「バドミントンクラブ」を読み、話し合う。 (1) あき子さんがみどりさんから誘われたこと、お父さんからアドバイスをうけたことについて話し合う。 あき子さん 「バドミントンクラブと一緒ににはらない」 ・友達と一緒にだから。 ・仲良しのみどりさんだから。 お父さん 「本当に何をやりたいか、よく考えることだよ」 ・自分がしたいことを大切にしたい。 ・絵画クラブがどうしても好きだから。	○ 話の内容が理解できるように、登場人物や場면을説明しながら範読する。 ○ 場面の様子を視覚的にとらえることができるように場면을紙芝居で提示する。 ○ いろいろな登場人物の考えが理解できるように板書で整理をする。 ○ それぞれのよさが明確になるように、色カードを4枚もって挙手させる。
		(2) 次の日の朝、自分があきこさんだったらみどりさんに何と返事するか道徳ノートに書き、話し合う。 絵画クラブ ・自分がしたいことが大切。 ・もっと上手になりたいから。 ・好きなことだとがんばれるから。 バドミントンクラブ ・仲良しの友達が大切だから。 ・友達と一緒にだったら楽しいから。	○ 返事することを共感しながら書くことができるように、資料の返事の場면을空白にしておく。 ○ 自分の考えを明確にもつことができるように、道徳ノートに書かせる。
		どれをえらぶかまよったときに、それぞれのよさに気づくことが大切。また、それぞれのよさを大事にすることも大切。	
		3 あき子のように、それぞれのよさに気づいて行動したことについて話し合う。	○ それぞれのよさに気づいて行動したことについて、振り返ることができるように教師の体験を話す。
		4 今日の学習でわかったことについて話し合う。 (1) 今日の学習わかったことについて話し合う。 (2) 友達の考えを聞いてわかったことについて話し合う。	○ 自分がわかったことについて明確になるように道徳ノートに書かせる。